イベント報告

対話の場を作ろう

木村佳司

シンポジウム「森を走ろう 2015」2015 年 1 月 11 日 東京都・立正大学品川キャンパス

開始にあたって基調講演を行う山西 JOA 会長。
森で行うスポーツの各団体、個人から約 40 名が集まり情報交換を行った。

森を走るスポーツの関係者の対話。なかなか出来ていないのが現実だ。

2015 年 1 月 11 日（日） 東京都品川区
シンポジウム「森を走ろう」

JOA が音頭

開催趣旨

「森を走ろう」とは、自然環境と地域環境を生かしたスポーツ文化再生、創造を願い山野を走るフットランスポーツ種目の共有の語り（対話）の場とすることがねらいである。（山西哲郎）

JOA はここ数年間、「森を走ろう」をテーマにシンポジムを行っているが、ここ 2 年はテーマを「トレイルラン」に絞ってシンポジウムを実施している。

数ある話題の中で、トレイルランが最も課題が多く、緊急性を要する内容が多いにも関わらず、全国的な取り組みがなされていないからだ。

組織化が遅れるトレイルラン

トレイルランニングはここ数年で急速に競技人口を増やしている。オリエンテーリングよりはるかに巨大な競技人口とマーケットに成長したにも関わらず、全国組織が設立されていない。つまりトレイルランの利益代表として日本社会に対する情報の窓口を持たないまま現在に至っている。

このことで社会やマスコミその他がトレイルランニング競技者たちとどう付き合ってゆけばよいのか判らず、各地でいろいろな問題を起こしている。

今まで組織化の話もあったが、トレイルランニングはメーカーやイベントが競技をリードしており、競技者自身の当事者意識が高くないことが、組織化の障害になっているように思える。

行政も動き出した

問題が顕在化しているなかで自主規制ができないなら、公的な規制が行われる。東京都管理の自然公園では 2015 年 4 月よりトレイルランニングなどに対する利用ルールが実施される見通しだ。環境省でも国立公園内でのルール策定が行われている。

同じ森を走るスポーツとして

オリエンテーリング今でもマイナースポーツではあるが、トレイルランニングより日本国内への導入が早く、それだけ組織化ができている。また国際連携もできており、競技規則もしっかりと出来上がっている。森を使った競技会開催の歴史も長い。

こうした経験を踏まえて、トレイルランニング関係者と情報交換を行ない、今発生している数々の問題を解決するための手助けを行なえればと思う。

森で行うスポーツで公益社団法人格を持っている中央競技団体は、日本オリエンテーリング協会のほかには、日本山岳協会しか無いのだ。

（木村佳司）